

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年5月13日

【四半期会計期間】 第142期第1四半期（自平成26年1月1日至平成26年3月31日）

【会社名】 東亜石油株式会社

【英訳名】 TOA OIL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山本 裕

【本店の所在の場所】 神奈川県川崎市川崎区水江町3番1号

【電話番号】 044(280)0600

【事務連絡者氏名】 経理財務担当取締役 白木 郁

【最寄りの連絡場所】 神奈川県川崎市川崎区水江町3番1号

【電話番号】 044(280)0600

【事務連絡者氏名】 経理財務担当取締役 白木 郁

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第141期 第1四半期連結 累計期間	第142期 第1四半期連結 累計期間	第141期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (百万円)	7,892	7,417	30,464
経常利益 (百万円)	632	72	558
四半期(当期)純利益 (百万円)	510	16	587
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	621	46	871
純資産額 (百万円)	24,278	24,037	24,528
総資産額 (百万円)	108,542	91,160	109,218
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	4.10	0.13	4.72
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	20.2	23.7	20.2

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間（平成26年1月～3月）におけるわが国の経済は、消費税増税前の駆け込み需要を背景とした堅調な個人消費に支えられ、企業の景況感が改善しました。一方、石油業界においては、構造的な石油需要の減少などにより厳しい事業環境が継続しました。

このような事業環境の下、当社京浜製油所ならびに株式会社ジェネックス水江発電所は順調に操業を続け、原油・原料油処理量は1,299千キロリットル（前年同四半期比 4.3%減）となりました。

以上の結果、売上高7,417百万円（前年同四半期比 6.0%減）、営業利益129百万円（前年同四半期比 81.5%減）、経常利益72百万円（前年同四半期比 88.5%減）、四半期純利益16百万円（前年同四半期比 96.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

< 石油事業部門 >

原油・原料油価格等の上昇が製品価格に十分には反映されず、原油精製委託契約に基づく精製マージンは前年同四半期に比較して大きく減少いたしました。加えて、発電設備に供給する燃料コストは前年同四半期に比べ上昇いたしました。

以上の結果、売上高は6,990百万円（前年同四半期比 5.3%減）、セグメント損失（営業損失）は154百万円（前年同四半期は363百万円の営業利益）となりました。

< 電気事業部門 >

東京電力株式会社と締結している電力供給契約に基づき、安定的に電力を供給いたしました。

以上の結果、売上高は3,861百万円（前年同四半期比 13.3%増）、セグメント利益（営業利益）は284百万円（前年同四半期比 15.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は91,160百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,057百万円の減少となりました。これは主に立替揮発油税等が減少したことによるものです。

負債は67,123百万円となり、前連結会計年度末に比べ17,567百万円の減少となりました。これは主に未払揮発油税等が減少したことによるものです。

純資産は24,037百万円となり、前連結会計年度末に比べ490百万円の減少となりました。これは主に四半期純利益の増加を配当の支出が上回り利益剰余金が減少したことによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は23.7%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

< 対処すべき課題 >

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

< 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針 >

当社は、エネルギー安定供給の一翼を担う昭和シェル石油グループの東日本への石油製品の供給を担当する基幹石油精製会社であります。今後も昭和シェル石油グループの一員として同グループ各社との連携を一層強化し、事業の持続的発展をはかるものであります。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年5月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	124,435,000	124,435,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は 1,000株であります。
計	124,435,000	124,435,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年3月31日		124,435		8,415		4,687

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 24,000		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 124,312,000	124,312	同上
単元未満株式	普通株式 99,000		同上
発行済株式総数	124,435,000		
総株主の議決権		124,312	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式が12,000株(議決権12個)が含まれておりません。

2 「単元未満株式」には当社所有の自己株式920株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東亜石油株式会社	神奈川県川崎市川崎区 水江町3番1号	24,000		24,000	0.0
計		24,000		24,000	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,391	4,813
売掛金	2,822	2,153
たな卸資産	2,180	2,233
立替揮発油税等	45,559	29,515
その他	1,481	1,396
流動資産合計	57,434	40,113
固定資産		
有形固定資産		
構築物(純額)	6,551	6,427
機械及び装置(純額)	17,538	16,631
土地	19,845	19,845
その他(純額)	3,448	3,728
有形固定資産合計	47,383	46,632
無形固定資産	54	47
投資その他の資産	4,346	4,367
固定資産合計	51,784	51,047
資産合計	109,218	91,160
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,145	736
短期借入金	21,737	22,039
未払揮発油税等	43,389	28,110
引当金	257	567
その他	5,662	3,745
流動負債合計	72,191	55,198
固定負債		
長期借入金	3,229	2,509
退職給付引当金	1,949	1,867
特別修繕引当金	2,152	2,143
修繕引当金	4,232	4,467
その他	936	936
固定負債合計	12,498	11,924
負債合計	84,690	67,123

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,415	8,415
資本剰余金	4,687	4,687
利益剰余金	8,787	8,306
自己株式	3	4
株主資本合計	21,886	21,404
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	195	166
その他の包括利益累計額合計	195	166
少数株主持分	2,446	2,466
純資産合計	24,528	24,037
負債純資産合計	109,218	91,160

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	7,892	7,417
売上原価	6,879	7,024
売上総利益	1,012	393
販売費及び一般管理費	310	263
営業利益	702	129
営業外収益		
受取利息	0	0
受取保証料	2	2
業務受託料	3	2
還付加算金	6	-
その他	3	4
営業外収益合計	16	10
営業外費用		
支払利息	64	49
有形固定資産処分損	1	1
その他	21	15
営業外費用合計	86	66
経常利益	632	72
特別利益		
補助金収入	306	132
特別利益合計	306	132
税金等調整前四半期純利益	938	205
法人税、住民税及び事業税	206	273
法人税等調整額	154	144
法人税等合計	360	128
少数株主損益調整前四半期純利益	577	76
少数株主利益	67	60
四半期純利益	510	16

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	577	76
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	44	29
その他の包括利益合計	44	29
四半期包括利益	621	46
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	554	13
少数株主に係る四半期包括利益	67	60

【注記事項】

(追加情報)

(税効果会計に使用する法定実効税率の変更)

平成26年3月31日に「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が公布され、平成26年4月1日以後開始する連結会計年度から、復興特別法人税が前倒しで廃止されることになりました。これに伴い、平成27年1月1日以後開始する連結会計年度において解消が見込まれる一時差異等について、その繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率は、38.0%から35.6%に変更されます。

この税率変更により、当第1四半期連結会計期間において、繰延税金資産が57百万円減少、繰延税金負債が0百万円減少、その結果、法人税等調整額が56百万円増加しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)
減価償却費 1,310百万円	減価償却費 1,215百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月25日 定時株主総会	普通株式	497	4	平成24年12月31日	平成25年3月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月24日 定時株主総会	普通株式	497	4	平成25年12月31日	平成26年3月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	石油事業	電気事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,275	2,616	7,892		7,892
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,109	791	2,900	2,900	
計	7,385	3,407	10,793	2,900	7,892
セグメント利益	363	338	702		702

(注)1 調整額はセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	石油事業	電気事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,390	3,027	7,417		7,417
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,600	834	3,434	3,434	
計	6,990	3,861	10,852	3,434	7,417
セグメント利益又は損失()	154	284	129		129

(注)1 調整額はセグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益(円)	4.10	0.13
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	510	16
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	510	16
普通株式の期中平均株式数(千株)	124,412	124,409

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月12日

東亜石油株式会社
取締役会御中

あらた監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 山本昌弘 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田邊晴康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東亜石油株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東亜石油株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象に含まれていません。